

会議開催記録

会議名	第3回 森町学校のあり方検討会
日時	平成29年9月6日(水) 14:00~15:40
場所	森町文化会館小ホール
出席者	教育長 検討会委員19名、事務局6名
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ(会長) 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校再編に向けた検討について (2) アンケートの実施について (3) 地域との意見交換について 4 その他(連絡事項) 5 閉会
議事要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会(事務局) 2 あいさつ(会長) <p>会議録について確認。会議の内容については秘匿するものではない。名前が出ることで積極的に意見が出づらくなるのは本末転倒である。今日配布しているのは発言者の名前が入っているが、公開する際は名前を取って公開を行う。</p> <p>第2回(あり方検討会)のアンケートに関する意見では、公の場では拾い上げられない小さな意見をきちんと拾い上げるべきだとの意見を頂いた。アンケートの内容と方針を後で紹介する。</p> 3 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校再編に向けた検討について <p>会 長： 学校規模については、12学級以上18学級以下を標準にするとあるが、この間でなければいけないということではない。</p> <p>通学に関してはスクールバスを利用する場合の目安として、1時間以内と設定している例が多い。森町の場合は、通学時間上の問題はない。</p> <p>学校は教育のための施設だけでなく、地域コミュニティの核としての機能を持っている。子供は学校で育つと同時に地域でも育つ存在である。地域が十分機能しなくなれば、学校自体はよくても教育全体でみれば制約が生じてくる。</p> <p>学校規模の適正化や適性配置については、行政が一方向的に進める性格のものではない。学校の性格を重視した上で、地域とともに考えていく必要がある。</p> <p>特色ある学校の形態について以下の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特認校 文書内では「特任校」 正しくは ×特任校 → ○特認校 ・義務教育学校と施設一体校 ・教育課程特例校 ・山村留学 ・放課後子ども教室と放課後児童クラブ <p>今日の議論については今紹介した学校の形態について</p> (2) アンケートの実施について <p>委 員：問13について、親が回答を書くことになっているが、子供が大きい場合は自分で書きたいということがあるかもしれない。その場合は子供が書いてもよいのか。</p> <p>会 長：現実には子供が書いたからと言って対処を行うことはできない。しかし、子供はこう思うはずだといって親が記入するのは好ましくない。聞いたことやあったことなどを書いてもらう。</p> <p>委 員：アンケートの集計が終わったら内容は公表されるのか。</p>

- 会長：もちろんアンケートの内容は公開する。個人名が特定されるような記述は伏せる。
- 委員：再編の検討が必要であるに選択をした際に下の欄には理由とあるが、具体的な案を持っていれば書いてもよいのか。
- 会長：書いていただけるのはありがたい。いい意見であれば検討したいと思っている。
- 委員：理由としか書いてないと意見や案を持っていても書かない人がいるのではないか。
- 会長：「理由」と書いている個所を「ご意見をお書きください。」とする。そうすれば意見や案が出てくると思う。
- 学校規模を中心として、統合するか残すかだけではなくて、どんなことを生かした次の学校の配置に関していくかということも含めて考えなくてはならない。
- (3) 地域との意見交換について
- 会長：自分の考えや意見があれば出してほしい。話が繋がっていけばその中からこのようにしていけばいいのではないかと、ということが出てきたら良いが、それは次回以降の話で繋がっていければいいと思う。前回もいろいろな意見を頂いている。
- 委員：事務局の方に森町の地図に役場、学校間の距離を示したもの又は、該当の学校に通う児童の通学距離や通学方法、通学時間がかかるかという資料があると良い。前回の訪問時に森中学校は通学方法に関しては人数が出ていたが、距離はどのくらいなのか、具体的に記した資料があるとより具体的な話し合いが出来る。
- 会長：煩雑な資料になるので、学校間の距離が分かるとか、現在持っている近い資料を提示することでもよろしいか。
- 委員：自分の子供が天方幼稚園の年長になった。本来ならば三倉幼稚園に入園する予定だが、入園直前になってその年は自分の子供しか入園児がいなくなってしまった。親としては同級生がいなくてということに焦りを感じた。当初は三倉幼稚園に入園し、翌年度に保育園に転園する予定だったが、教育委員会から、幼稚園はどの幼稚園にも通うことができるということを知り、現在天方幼稚園に通っている。やはり同年代の同級生との関わりというのは不可欠なものであると感じている。子供は子供同士の遊びの中でいろんな感情や思いやりの気持ちが育っていくと思っている。来年度に三倉小学校に入学するが、同性の同級生が一人もいないことに子供が不満を言っていた。同性の同級生は必要と感じている。
- 会長：前回も多くの方から意見を頂いたが、お母さん方の意見では同級生の子供がいるというのは必須である。この意見については共通のものとして認識している。一つ意見として聞きたいのは、どのくらいの人数がいれば良いものなのか。
- 委員：最低一人は欲しい。男の子2人、女の子2人はほしい。
- 会長：安定的にその人数がいなくてはいけないことを考えると、各学年5～6人は必要である。5～6人であれば、男の子だけ女の子だけという状況はあまりない。
- 形だけを見ると、三倉は厳しい。天方も長期的にみると厳しくなる。
- 委員：現在天方小学校に通う子供が2人、天方幼稚園に通う子供が1人いる。去年天方幼稚園に通っていた時に同級生が5人だったが、そのうち1人だけ三倉小学校に入学した。なので天方小学校の同級生が今4人であるが、一人だけ三倉小学校に行ってしまうというのは寂しく感じる。1人だけ離れてしまった子供の保護者も心配していた。天方小学校と三倉小学校は年に3回交流をしており、子供達が再会した時にすごく喜んでた。今後は交流をもっと増やして頂けるとありがたいと思う。
- 会長：母集団が多いというのが絶対的なことではあるが、固定化するよりかは交流があった方がよい。そこは教育の内容でいくらかは工夫できる。
- 委員：本来三倉幼稚園に通う予定だったが、天方幼稚園に行く事になり、三倉幼稚園が休園状態になったことに周りからのプレッシャーを感じる。
- 会長：本来はそうあるべきではない。幼稚園のために子供がいるということではなく、子供

のために幼稚園がある。同じ状態にある保護者を生まないように考えなくてはいけない。

委員：この会で決まった事が今後森町にとって大きい事になるのではないかと思う。ここで決まったことが子供の幸せや住民の事も考えて、森町の子として育つにはどうすればよいか。やはり大勢の方と触れ合うことがいいのではないか。スクールバスを出す案もあったが、その際には児童生徒のみの利用にするのではなく、住民も乗れるようにするなど、学校用途以外にも活用するようにすれば森町が活発になると思う。

会長：統廃合ということが現実味を帯びてくれば、スクールバスの運行も可能になってくる。バスの運搬に余力があれば、お年寄りもそれに乗って町中に出てくるなども可能になる。現状の規模になるまで学校がどうして残ったかという、学校がなくなるのが寂しい声が地域にはある。決して解決不可能な問題ではなく、学校がなくとも子供がコミュニケーションを取ることでもできる。具体的な例として、スクールバスで学校の跡地に戻ってきて学童保育をすることは問題なく出来る。保護者の送迎も近い。そこでより親密な関係を持ちながら、学校では少し多くの人数と付き合うというのも可能になってくる。そのような知恵を出し合って、こういう形なら保護者も地域の人も喜ぶといった前向きな意見ができればいいなと考えている。

委員：バスについて、小型のコミュニティバスがあるが、ああいっただのものをスクールバスとして活用するのはどうか。

会長：学校規模によっていろいろな形があるが、路線バスからコミュニティバスに変更することはよくある事例。

委員：ここでの話では、子供のためにはやはり統廃合をした方がよいのではないかという話も出ているが、学校を絶対に残してほしいという人もいる。廃される学校の活用に関して方法や案を具体的に示すことで地域に対して理解を得られるのではないか。

会長：おそらく次回の時には、例えばこういうやり方があるといういくつかの案を持って、委員に示したいと考えている。決して私の意見が正しいわけではない。実際の叩き台の案を持ってくるのは私たち（会長・事務局側）だが、ここの場でいろんな意見を頂いておけると、それをふくらませたり、修正するなどしたりして別の形にしていきたい。地元の人たちが大切にしてきた思いは残したい。学校跡だけが残ってしまって、新しく住んでみようという人も躊躇してしまう形はどうしても避けたい。新しく人が入ってこられる地域に少なくとも学校が不安材料にならないようにしていく。現状私自身が考えている目標である。そういう方向でいろんな意見を頂けたら、そういったことが出来ると思う。

働く保護者の視点から見た時に、学校や放課後児童クラブなどのあり方や要望などの意見はあるか。

委員：働いているので私の子供を学校があるときは放課後子供教室があるのでそちらに預けているが、長期の休みになると休みになってしまう。その時には学童（放課後児童クラブ）をやっている森小学校や宮園小学校のその年に空いている所に預けている。学区の違う場所に長期の休みの時だけ預けているのも不安がある。地元で預かってくれる場所があれば助かる。

会長：ある程度子供が集まればいろんなことが可能である。例えば、三倉はキャンプなどしたりするにはうってつけの所なので、夏休みに1週間の長期子供教室を開いて、その間子供を泊りで他地域の子供と交流することもできる。しかし、やってみたはいいが誰も参加しないととなると落胆が大きい。どんなことだったら人が集まりそうだろうかアイデアがあると良い。長期休暇期間中の平日に預かってくれる場所として、放課後児童クラブのように1日当たりで利用料を取って期間限定で運営することもできる。

事務局：三倉小学校・天方小学校に設置しているのは放課後子ども教室であり、管轄が文部科

学省である。飯田小学校・宮園小学校・森小学校に設置されているのは放課後児童クラブである。放課後児童クラブは働く母親への支援が目的であり、長期休暇中でも有料で開設している。放課後子ども教室は、あくまでも放課後の開設という事が前提であり、長期休暇中の開設ができない。今後三倉・天方でも放課後児童クラブに変えるということであれば、長期休暇中でも開設は可能である。現状では放課後児童クラブが開設している飯田・宮園・森に三倉・天方の子供が行っている状態である。

委員：こども園についてどういう内容で、どういったメリットやデメリットがあるのか。

事務局：認定こども園は幼稚園と保育園の両方の機能をもたせたもの。入園については認定を受ける必要があり、教育を希望する子供については1号認定、保育を希望する子供で3歳児以上は2号認定、3歳未満なら3号認定となる。今の森町では公立幼稚園しかないの1号認定の子供は幼稚園に通い、2号認定の子供は保育園に通う。認定こども園になると一つの建物の中に教育を希望する方、保育を希望する方、両方が同じ施設で過ごす。両方の機能を併せ持つため、給食施設も必要になる。先生も保育士、幼稚園教諭の免許が必要になる。森町には公立幼稚園と民営の保育園があるが、それらを統合して認定こども園を作るとするのは考えにくい。既存の保育園が認定こども園に移行するとか、公立幼稚園も幼稚園型の認定こども園として多少預かる時間を延長していくのも一つの案である。預かり保育もやっているが、17時までと決めている。希望として18時まで出来ないかとの意見も頂くが、長時間の預かりを希望する方には保育園に行くようお願いしている。全部の幼稚園で長時間の預かりになると人の確保などが難しい。また、今は16時前後に迎えにくる家庭が多く、これよりも遅い時間になると子供が一人だけになることもあり寂しい思いをさせてしまう。

会長：保護者からみて、何時まで預かってもらえるのが理想か。

委員：理想で言えば18時。仕事が終わった後の移動時間を考えるとそのくらいの時間になることも多い。

会長：例えば、地域で学校がなくなると寂しいという意見を持った方が多くいる。NPOを組織して預かり保育を有料でもやって頂いて、今の学童よりも時間的に余裕のあるようにやるのも出来る。もしそういうものがあったら利用したいか。

委員：保育園の時間と預かりの時間に関して、私の子供が保育園に行っているが、私の母親が迎えに行ってくれたので、17時前後には迎えに行く事ができた。しかし、毎日行けるわけではなく、その場合は仕事が終わってから自分が迎えに行く事になるが、現在の通勤時間が約30分かかってしまう。そうした時に保育園にもほぼ他の子供がいない状態である。学童保育でも17時30分までしか見てもらえないため、同じ状況である。学童保育は1年生の場合は一人で帰宅させられないので、必ず迎えに行く必要があり、現在は自分の母親に迎えに行ってもらっているの、何か問題があった際には迎えに行けなくなってしまう。こういった時間の枠組みは通勤時間や勤務体系によって左右されるので難しいと思う。家庭により様々な事情があるので、預かる時間に対してはなかなか答えづらい内容ではある。

中学校の部活動に関して、森中学校に通う子供がいるが選べる部活がほとんどない。泉陽中学校に比べればあるが、団体競技とかを考えると少ない。女子は陸上、テニス、バレーなどの選択肢しかない。例えば、小学校をそのままにして、中学校を1つに統合すれば人数の確保が出来て、部活の選択肢がもう少し広がると思う。今は小学校にあった部活が中学校にないこともあり、続けようがなく、町のクラブに所属する子供や、森町外の中学校に行く子供もいる。

会長：現状森町の中学校は3校とも部活動の選択を考えると制約が出てくる。施設の問題があるのですぐにどうこうできる事ではないが、長期的には検討が必要である。

委員：周辺の小規模の場所は1校だけなのに、森町は何故3校もあるのか。泉陽中学校は数

- 年後には唯一ある陸上部までなくなってしまうかもしれないほど人が減っていると聞いている。子供達の能力は学力だけでなく、部活動などで自分の能力を出せる子供もいると思う。なので、部活動を有意義にさせてあげたい。自分の長男がバスケットボールに力を入れているが、泉陽中学校にないので、森町外の中学校の受験も考えている。
- 会 長：部活に関しては、結構問題が出てきている。勤務の問題として、部活動を先生方に勤務の一端として命じるのはおかしいのではないか、違法ではないかとの話もあるが、先生方の努力によって保たれている。しかし、これだけ問題が表面化してくると、これ以上は難しい。考え方のひとつでは部活という形ではなく、地域のクラブという形でどこでも活動ができるというのも可能である。学校のグラウンドを活用することもできる。そうすると部活動と学校は切り離されるが、スポーツの種類を増やすことはできる。学校をどうするかというのは長期の問題であり、それを見据えたうえで、おそらく部活動の位置づけというのは変わらざるをえないので、そうなった時にどうするか全体の事を考えていくことができる。
- 委 員：地域コミュニティと学校のあり方について、呼びかけたり提案したりすることがある場合に、地域側が個人だとなかなかその意見を受けにくい。地域の方にも組織を作り、そこから意見や提案をすれば、地域と学校という構図で捉えやすい。
- もう一つは、地域には学校のOBがいるので、その人たちを学校と地域との活動に生かしてやればよいのではないか。
- 会 長：文部科学省の方で、コミュニティスクールという地域で運営する学校が努力義務化されている。少なくとも10年以内にほとんどの学校が地域が運営に関わるようになっていく。そうなった時に地域の方が学校運営に関わっていける仕組みを考えなくてはならない。現在の40代以降の人達は100歳ぐらいまで生きると言われている。学校を卒業してから定年までと定年後からの人生がだいたい同じ長さになっている。そういった人たちを共働きの世代の需要と合わせれば住み良い町が出来るではないか。問題は どうやってそれらを合わせていくか。上手く仕組みが出来れば、今人が減っている地域でも住みやすい町になれるかもしれない。今後はそういったことも考えていきたいが、他に検討することも多いので時間をかけて考えていく。
- 委 員：中学校の部活について、自分の子供達も自分たちで選んで部活動に所属しているが、友達の中にはクラブに所属する子もいる、他校の部活に比べると人数の差が大きい。親の意見としては1校になればと思うこともある。
- 会 長：仮に1つに統合されたとして、中学生は通学ができるのか。
- 委 員：住んでいる場所にもよる。三倉地区の子はバスで通学している。あそこまで自転車で通学は厳しい。1校にするのは理想ではあるが、スクールバスありきでの話だと思う。
- 委 員：天方地区から子供が自転車で通っているが、人通りや車の通りも少なく、少し暗いので、不審者情報等を考えると少し不安である。
- 委 員：一宮地区はバスが走っていない。自転車か保護者が送迎をしている。少し離れた場所にはバスなどもあるが、本数が少ないので、子供が高校生になった時に部活をすると帰りの交通手段がなくなる。
- 委 員：現在の保護者が持っている意見と事務局側の対応に時間差があるので、スピード感をもって対応が可能なことは迅速にお願いしたい。
- 会 長：行政での対応については予算の執行のプロセスがあり、実際に対応を行うには時間がかかる。需要があるところに多少でもコストが掛けられる仕組みが出来るとよい。
- 委 員：地域の意見交換について、予定などの具体的な話は決まっているのか。
- 事 務 局：基本的な方針として、本来は全地区で行うのが正道だが、現在行われている町長と語

る会などの様子を考えると、直面している地域の関心が高い。地域に住んでいる人の総意に向かってまとまることを期待して、天方地区と三倉地区での懇談会を開く予定である。町長と語る会が落ち着いたからの開催になるので、10月の落ち着いた時期に行う。地域の議員にも入ってもらって出来る限り多くの人と話し合う機会を設けて、議論を重ねて、話し合いの方向が少しでもまとまる事を期待している。

会 長：ここでの話し合いは、合理的な目線で子供の事を考えて、地域にとっても良い方向に考えている。地域の側から考えた時に、こちら側を統合しようと考えていると思われるような構図にはしたくない。実際に地域にとっても良い形には持っていきたい。単に少ないから削るという話ではなく、地域の方が参加できる形を考えているという構図にしたい。ここで話し合った内容が対立の形になってしまったら意味がなくなる。

委 員：森町全体の子供達にとってどうすればよいのかという考え方をしたい。三倉小学校の交流を受け入れる時にも同じ話をしたが、やはり地域も含めたみんなが森町全体の子供達のことを考えられるとよいと思う。
行政の対応の速さ、いつ実現するのかということは子供をもつ保護者にとっては心配なことである。出来るだけ理想の形で早く出来ると良いと思っている。

会 長：校舎改修などの話になると何十億の話になり、その予算をどこから捻出するのかという事からになり、大きな長い期間の話になる。早く対応が出来るものなどロードマップが出来ると良い。今後の対応についての想定ロードマップなど。理由があって出来ないものは仕方ないが、ただだらして出来ないのは良くない。そういった事も含めて、いつまでに結論出すのか、どこからどこまでの話し合いをまとめるのか、ということも含めて、次回以降具体的な話をしてきたい。

委 員：今後の動きに対して、ある程度の目途があるならば提示してほしい。他市では学区編成を5年間という区切りをつけて行っていた。具体的な期間などの区切りがあると動きやすい。どこかの線引きがないと動きづらい。

事 務 局：事務局から具体的な案や時期を提示すると、地域の意見や思いを無視したと思われることがあり、そうなる話し合いがまとまらなくなる。近隣でもそういったことがあったために統合の話が白紙になり、数年後に再度話し合いをし直すことがあった。慎重に話し合いを進めて、双方が納得する形にしたいので、具体的な案や時期はまだ出せない。

会 長：間延びするのはよくはない。私の思いとしては、年度内に何らかのまとまった形は作りたいと考えている。どこまでの結論が出るかは分からないが、少なくともこのあり方検討会としてこういう方向、こういう形を目指すというのを示したい。次回以降はそういった目的意識をもって、年度内に何らかのものを作るという話し合いをしたい。

事 務 局：今後の流れとしては、この会のまとまった内容を教育委員長に対して答申する。それを受けて、今度は教育委員会を早急に開き、答申の内容を協議・調整し、ある程度方向性を出す。その後は町長との総合教育会議に臨む。

会 長：次回以降、地区との話し合いも踏まえて対立関係にならない様に注意しながら、全体の生産的なものを考えていきたい。協力をよろしくお願いします。

4 その他（連絡事項）

事 務 局：次回開催日は11月13日月曜日14時から開催予定。

5 閉会

事 務 局：長時間にわたり協議ありがとうございました。以上をもって森町第3回学校のあり方検討会を閉会します。

以上